

柔道における男子・女子選手の技の比較

高校大会の試合結果から

塚田 修三*

Comparison of WAZA (Techniques) of Male and Female Judoists Complied from results at high school level competitions

Shuzo TSUKADA

Based on examination and analysis of the points above "yuko" won by athletes at competitions, the following distinctions between favored techniques were noted.

- 1) Male athletes tended to score points using "nage-waza" (throwing techniques) such as "harai-goshi" (sweeping hip throw) and "uchi-mata" (inner thigh throw), which require muscular power.
- 2) Female were more likely to score points using "ashi-waza" (foot techniques) or "osaekomi-waza" (holding techniques), such as "yoko-shiho-gatame" (side four-corner hold) and "kesa-gatame" (scarf hold).

キーワード：高校柔道、技、男女比較

1. はじめに

現在、女子柔道は、各種国際大会が開催され、1992年のバルセロナオリンピックからは正式種目に採用されるなど世界で広く行われている。形と無理のない乱取が中心であった我が国の女子柔道は、1978年(昭和53年)第1回全日本女子柔道選手権大会の開催を契機に競技化へ進み、今日に至っている。ヨーロッパ諸国が女子柔道の修行者の激増とともに試合を始めた1950年代～1960年代から遅れること約10年である。近年、学校の正課の体育でも扱われ、女子の競技人口の増加とともに、小学生から一般まで幅広い年代で行われ様々な試合も開催されている。

試合は、男子・女子ともに同一の競技規定¹⁾で行われているが、両者の試合内容、技術には若干の差異のあることが、これまでの試合分析、調査等によって報告^{2), 3), 4), 5)}されている。

男子と女子の試合内容、技術に差異があらわれる要因としては、次の二点を上げることができる。第一に男子と女子の体力差^{6), 7)}である。体格面では、女子は男子の80%～90%以上の値であるが、平成7年度の文部省体力・運動能力調査の結果⁸⁾から17歳の体力を男子・女子で比較すると、握力62.4%、背筋力56.8%、垂直とび70.1%とかなり低い値であり、女子は筋力、

瞬発力において劣っている。このような一般の平均値をそのまま競技者に当てはめることはできないが、柔道の技が対人的な技術であり、相手との動きの中で、瞬間的にタイミングをとらえて技を掛け、投げきるパワーを必要とすることを考えると、両者の体力差が試合の結果にもあらわれてくるものと推測される。第二に技術段階の差が考えられる。大学、一般の競技者においては男子と女子の技術段階にあまり大きな差はないと思われるが、中学、高校段階においては、体力面、格闘技としての柔道に対する心理的な受けとめ方、指導者の指導法などから、それぞれの段階で男子と女子の獲得技術に差があるものと推測される。

本研究では、高校段階における男子と女子の試合内容および技の差異を試合の結果から比較検討し、今後の指導の手がかりを得ようとするものである。

2. 方 法

2-1 調査対象

長野県で開催された県レベルの大会のうち、男子・女子の全試合数をもっとも多い高校の大会を調査対象とした。調査対象とした大会は表1のとおりである。

試合は講道館柔道試合審判規定によって次のとおり実施された。

①試合時間は3分、ただし、男子団体戦及び男子個人

*一般科助教授

原稿受付 1997年10月30日

表1 調査対象の大会

期日	場所	大会名
1991.5.25 ~26	松本市柔剣道場	平成3年度長野県高等学校 総合体育大会柔道競技会
1993.6.5 ~6	駒ヶ根市武道館	平成5年度長野県高等学校 総合体育大会柔道競技会

戦の準々決勝戦以上は4分とする。

②優勢勝の判定基準は、規定40条(2)により「有効」または「注意」以上、団体戦の代表選及び個人戦においては、規定40条(3)により「僅差」以上とし、必ず勝敗を決する。

2-2 調査内容

2つの大会の試合において全選手が得た「有効」以上の効果があった技をすべて記録した。

したがって、勝者、敗者の別なく、また、「一本勝」の場合でも「一本」の決まり技だけでなく、「技あり」、「有効」を得ていれば、それらの技もすべて記録した。

これら試合の記録を、勝負内容、技の種類、技の効果の程度別に分類し、男子・女子柔道の差異を試合の技から比較検討した。

3. 結果と考察

3-1 勝負内容

勝負内容を表2、図1に示した。

	勝負内容				引分	計
	一本 技有	優勢勝 有効	僅差	引分		
男子 個人戦	151	23	40	82	-	296
団体戦	181	18	34	-	78	311
計	332	41	74	82	78	607
(%)	(54.7)	(6.8)	(12.2)	(13.5)	(12.9)	(100)
女子 個人戦	84	8	14	24	-	130
団体戦	78	7	5	1	8	99
計	162	15	19	25	8	229
(%)	(70.7)	(6.6)	(8.3)	(10.9)	(3.5)	(100)
全体 個人戦	235	31	54	106	-	426
(%)	(55.4)	(7.3)	(12.7)	(24.9)		(100)
団体戦	259	25	39	1	86	410
(%)	(63.1)	(6.1)	(9.5)	(0.2)	(21.0)	(100)
計	494	56	93	107	86	836
(%)	(59.1)	(6.7)	(11.1)	(12.8)	(10.3)	(100)

注1. 不戦、棄権試合は除く。

注2. 女子団体戦の僅差1は代表戦の結果である。

勝負内容を全体で見ると、「一本勝ち」59.1%、「優

勢勝ち」30.6%、「引き分け」10.3%であった。男子と女子の勝負内容を見ると、男子では「一本勝ち」54.7%、「優勢勝ち」32.5%、「引き分け」12.9%であり、女子では「一本勝ち」70.7%と多く、「優勢勝ち」25.8%、「引き分け」3.5%の割合であった。「一本勝ち」が男子にくらべ女子に圧倒的に多い割合を占める傾向^{2), 3), 4)}は、女子柔道が盛んになったとはいえ、男子にくらべ女子選手層の薄さが、選手間の大きな実力差を生むことにあるものと推測される。

個人戦と団体戦で勝負内容を見ると、男子・女子ともに団体戦に「一本勝ち」の占める割合が多かった。団体戦においては体重差の大きい対戦相手との試合が多いことが理由の一つとして考えられる。また、個人戦に「引き分け」がなく、団体戦に「僅差優勢勝ち」が1試合(代表選)のみとなっているのは、勝負判定の基準の相違からくるものであり、個人戦における「僅差優勢勝ち」と団体戦における「引き分け」がほぼ同程度の割合であった。

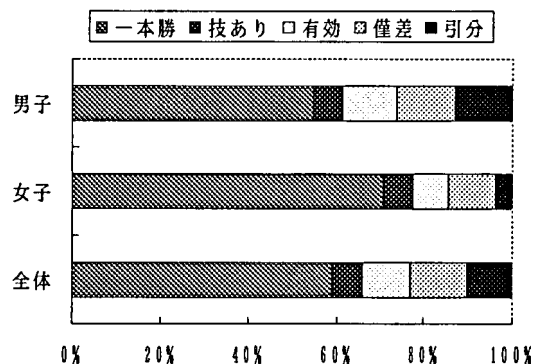


図1 勝負内容

3-2 投げ技と固め技の割合

「有効」以上の効果があった技を投げ技と固め技に分類し、その割合をみると表3、図2のとおりである。全体では、投げ技67.8%、固め技32.2%であり、投げ技と固め技の割合はおおよそ7対3⁹⁾である。男子と女子を比較すると、男子では投げ技71.7%、固め技28.3%、女子では投げ技59.1%、固め技40.9%であり、全体の傾向にくらべて、男子では投げ技優位、女子においては固め技優位であり、他の調査報告^{2), 3), 4), 5)}と同様の傾向がみられた。

試合の中で投げ技にくらべ固め技の機会が制限されている現行の競技規定¹⁾では、投げ技優位の傾向は変わらないが、女子において固め技の割合が多い理由としては、投げ技で投げきるパワーが不足しているという体力的要因と固め技の攻防の技術段階が未熟であるという技術到達段階の要因があげられる。表4は「一

本勝ち」における投げ技と固め技の割合をみたものだが、男子の投げ技52.7%、固め技47.3%であるのに対し、女子では投げ技30.9%、固め技69.1%であり、女子において固め技優位の傾向がより顕著である。

表3 投げ技と固め技の割合 度数(割合)

	投げ技	固め技	計
男子	463(71.7)	183(28.3)	646(100.0)
女子	172(59.1)	119(40.9)	291(100.0)
全体	635(67.8)	302(32.2)	937(100.0)

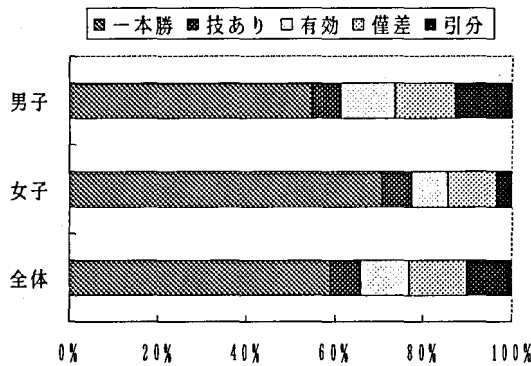


図2 投げ技と固め技の割合

表4 「一本勝ち」における投げ技と固め技の割合 度数(割合)

	投げ技	固め技	計
男子	144(52.7)	129(47.3)	273(100.0)
女子	38(30.9)	85(69.1)	123(100.0)
全体	182(46.0)	214(54.0)	396(100.0)

3-3 技の分類

「有効」以上の技を分類別に見ると表5、図3のとおりである。

全体をみると足技がもっとも多く31.1%、次いで抑込技27.6%、手技16.8%、腰技12.8%、の順であった。足技は技の種類も一番多く、試合の中では、「一本」をとる技として、また、くずし、つなぎの技として、もっとも使用頻度の高い技である。効果のあった技においては、男子で一番多く、女子では抑込技に次いで二番目ではあるが、その割合は、男子・女子ともにおよそ30%であり、ほぼ同程度の割合であった。

男子と女子を比較すると、女子では抑え込み技35.1%、足技31.6%であるのに対し、男子は、足技30.8%、抑込技24.3%であり、両者の順序は逆であった。これらの男子と女子の違いは、両者の技の特徴を示すものであり、前述した男子は投げ技優位、女子は固め技優位の傾向を裏付ける結果となった。

表5 技の分類 度数(割合)

	男子	女子	全体
投げ技			
手技	133(20.6)	49(16.8)	182(19.4)
腰技	101(15.6)	19(6.5)	120(12.8)
足技	199(30.8)	92(31.6)	291(31.1)
捨身技	17(2.6)	3(1.0)	20(2.1)
その他	13(2.0)	9(3.1)	21(2.2)
固め技			
抑込技	157(24.3)	102(35.1)	259(27.6)
絞技	14(2.2)	12(4.1)	26(2.8)
関節技	12(1.9)	5(1.7)	17(1.8)
計	646(100.0)	291(100.0)	937(100.0)

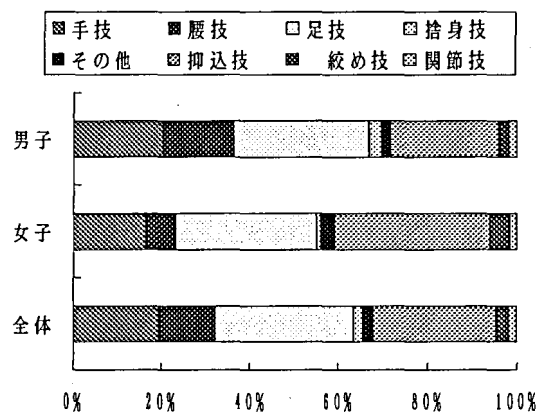


図3 技の分類

3-4 ポイント別に見た技の傾向

「一本」、「技有り」、「有効」のポイント別に男子、女子の主な技を表6、表7、表8に示した。

(1) 「一本」の技

「一本」の技を多い順にみると、男子は、払腰18.3%、横四方固13.9%、内股13.6%、女子は、横四方固22.8%、袈裟固20.3%、送襟絞7.3%の順であり、前述した男子は投げ技優位、女子は固め技優位の傾向を示している。

「一本」の投げ技は、男子では払い腰、内股、一本背負投を含めた背負投、女子では大外刈、一本背負投を含めた背負投が多く、それぞれ「一本」をとる代表的な技といえる。また、固め技では、男子が、横四方固、袈裟固、縦四方固等の抑込技が主であるのに対し、女子では横四方固、袈裟固などの抑込技の他に送襟絞が比較的多く両者に違いがみられた。

(2) 「技有り」の技

「技有り」の総数は、「一本」のおよそ半数に減っているが、主な技をみると、男子では払腰11.6%、内股11.6%、袈裟固11.0%、背負投10.4%、横四方固9.2%、大外刈6.4%などであり、女子では、袈裟固19.8

%, 大外刈14.0%, 払腰9.3%, 大内刈9.3%, 横四方固9.3%, 背負投8.1%, 上四方固8.1%などである。

投げ技, 固め技ともに多い技の傾向は, 「一本」の技とほぼ同様の傾向を示しているが, 男子, 女子ともに固め技の割合が減少し, 投げ技が多くなっている。

また, 投げ技では男子において大内刈3.5%, 女子においては, 大内刈9.3%, 小内刈4.7%など「一本」の技では少ない足技がみられることも「技あり」の技の特徴の一つといえる。

表6 「一本」の技 度数(割合)

男子		女子	
1. 払腰	50(18.3)	1. 横四方固	28(22.8)
2. 横四方固	38(13.9)	2. 袈裟固	25(20.3)
3. 内股	37(13.6)	3. 送襟絞	9(7.3)
4. 袈裟固	20(7.3)	4. 上四方固	8(6.5)
4. 縦四方固	20(7.3)	4. 大外刈	8(6.5)
6. 上四方固	19(7.0)	6. 縦四方固	6(4.9)
7. 背負投	15(5.0)	6. 払腰	6(4.9)
8. 大外刈	12(4.4)	8. 背負投	5(4.1)
9. 腕挫十字固	10(3.7)	9. 内股	4(3.3)
10. 一本背負投	6(2.2)	10. 一本背負投	3(2.4)
10. 体落	6(2.2)	その他	21(17.1)
その他	40(14.7)	-	-
計	273(100.0)	計	123(100.0)

表7 「技あり」の技 度数(割合)

男子		女子	
1. 払腰	20(11.6)	1. 袈裟固	17(19.8)
2. 内股	20(11.6)	2. 大外刈	12(14.0)
3. 袈裟固	19(11.0)	3. 払腰	8(9.3)
4. 背負投	18(10.4)	4. 大内刈	8(9.3)
5. 横四方固	16(9.2)	5. 横四方固	8(9.3)
6. 大外刈	11(6.4)	6. 背負投	7(8.1)
7. 一本背負投	10(5.8)	7. 上四方固	7(8.1)
8. 体落	9(5.2)	8. 内股	5(5.8)
9. 上四方固	8(4.6)	9. 小内刈	4(4.7)
10. 大内刈	6(3.5)	10. 縦四方固	4(4.7)
その他	55(31.8)	その他	6(7.0)
計	173(100.0)	計	86(100.0)

注: 抑込技は[合せ技]を含む。

(3) 「有効」の技

「有効」の主な技は, 男子では, 背負投が18.0%と一番多く, 次いで払腰11.0%, 大内刈9.5%, 小外刈9.0%, 内股8.5%等であり, 女子では男子と同様に背負投が一番多く19.5%, 大外刈14.6%, 小内刈12.2%,

体落8.5%, 大内刈7.3%などの順である。

「有効」の主な技の傾向は, まず第一に「一本」, 「技あり」に多くみられた抑込技が, 前述した理由により, みられないことである。第二として, 「一本」, 「技あり」の主な技ではあまりみられなかった大内刈, 小内刈, 小外刈などの足技や捨身技の谷落がみられることである。これは, 「一本」をとりにくい技の特性によるものと考えられる。

表8 「有効」の技 度数(割合)

男子		女子	
1. 背負投	36(18.0)	1. 背負投	16(19.5)
2. 払腰	22(11.0)	2. 大外刈	12(14.6)
3. 大内刈	19(9.5)	3. 小内刈	10(12.2)
4. 小外刈	18(9.0)	4. 体落	7(8.5)
5. 内股	17(8.5)	5. 大内刈	6(7.3)
6. 大外刈	12(6.0)	6. 一本背負投	5(6.1)
7. 小内刈	11(5.5)	7. 払腰	5(6.1)
8. 一本背負投	9(4.5)	8. 内股	5(6.1)
9. 体落	8(4.0)	9. 出足払	3(3.7)
10. 谷落	7(3.5)	10. 小外刈	2(2.4)
その他	41(20.5)	10. 支釣込足	2(2.4)
-	-	10. 谷落	2(2.4)
-	-	その他	7(8.5)
計	200(100.0)	計	82(100.0)

3-5 投げ技の技別傾向

「有効」以上のポイントとなった主な技をみると次のとおりである。

(1) 手技

手技の技別傾向を表9, 図4に示した。手技では, 背負投が一番多く, 次に多い一本背負投を合わせると, 「有効」以上のポイント総数は全体で132である。これは, 技別では一番多い払腰の111を上回り, 一本背負投を含む背負投が投げ技全体の代表的な技であることを示している。この傾向は男子, 女子ともに共通である。背負投, 一本背負投に次いで多い体落は, 男子, 女子双方で比較的良好に使われている技であり, 「有効」以上のポイント数も両者同程度の割合であった。その他の技は, 全体で踵返4, 内股すかし2, 朽木倒1などである。

手技のポイント別割合を表10, 図5に示した。手技では, 全体で「有効」が48.9%と半数近くを占め, 手技の代表的な技である背負投は, 「一本」「技あり」の数も多く, 得意技として, 「一本」をとる技として使用頻度の高い技ではあるが, 「一本」をとりきれず「技あり」, 「有効」になるケースの多いことを示している。

表9 手技の技別傾向 度数(割合)

	男子	女子	全体
背負投	69(51.9)	28(57.1)	97(53.3)
一本背負投	25(18.8)	10(20.4)	35(19.2)
体落	23(17.3)	9(18.4)	32(17.6)
掬投	7(5.3)	1(2.0)	8(4.4)
その他	9(6.8)	1(2.0)	10(5.5)
計	133(100.0)	49(100.0)	182(100.0)

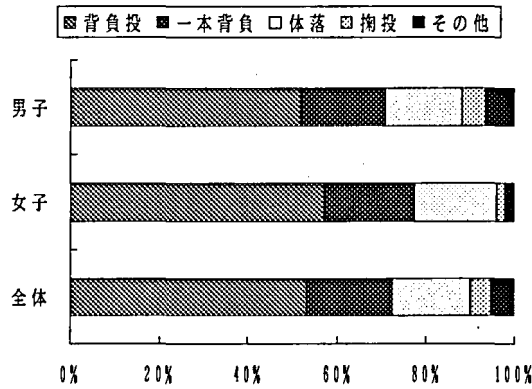


図4 手技の技別傾向

表10 手技のポイント別割合 度数(割合)

	一本	技あり	有効	計
男子	30(22.6)	42(31.6)	61(45.9)	133(100.0)
女子	10(20.4)	11(22.4)	28(57.1)	49(100.0)
全体	40(22.0)	53(29.1)	89(48.9)	182(100.0)

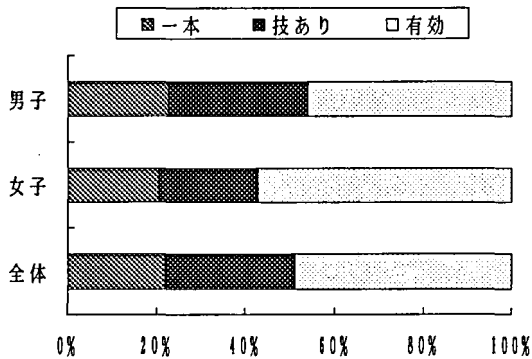


図5 手技のポイント別割合

(2) 腰技

腰技の技別傾向を表11, 図6に示した. 全体では, 払腰が92.5%を占めて圧倒的に多く, 腰技の代表的な技といえる. しかし, 投げ技の「有効」以上のポイント総数を男女別にみると, 払腰は, 男子では一番多く92であるのに対し, 女子では大外刈32, 背負投28に次いで三番目の19である. 払腰が片足を軸足として施技

者と相手の体重を支え, もう一方の脚で相手の体を払いあげる力技であり, 両足で体を支持して技を施す背負投, 体落と異なり, パワーを要する技であることが女子に少ない理由の一つとして考えられる.

表11 腰技の技別傾向 度数(割合)

	男子	女子	全体
払腰	92(91.1)	19(100.0)	111(92.5)
袖釣込腰	2(2.0)	0(-)	2(1.7)
大腰	6(5.9)	0(-)	6(5.0)
その他	1(1.0)	0(-)	1(0.8)
計	101(100.0)	19(100.0)	120(100.0)

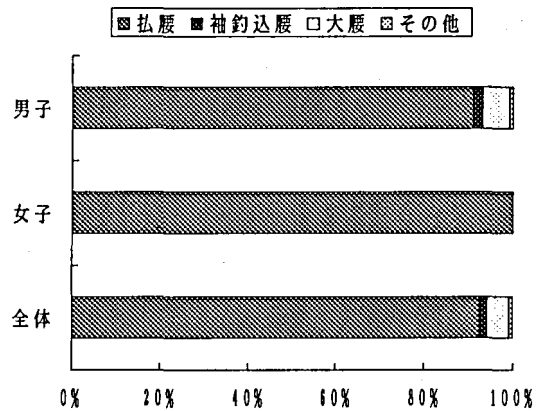


図6 腰技の技別傾向

表12 腰技のポイント別傾向 度数(割合)

	一本	技あり	有効	計
男子	54(53.5)	23(22.8)	24(23.8)	101(100.0)
女子	6(31.6)	8(42.1)	5(26.3)	19(100.0)
全体	60(50.0)	31(25.8)	29(24.2)	120(100.0)

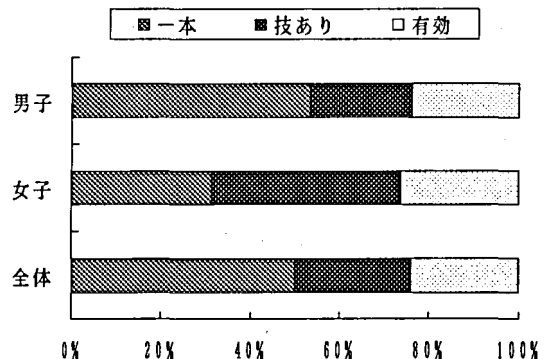


図7 腰技のポイント別割合

腰技のポイント別割合を表12, 図7に示した. 払腰に代表される腰技は, 全体で「一本」が50.0%と投げ技の中で一番多い割合を示した. 「一本」の割合を男子と女子で比較すると, 男子53.5%, 女子31.6%であ

り、先に述べた理由により女子が低い値を示している。

(3) 足技

足技の技別傾向を表13, 図8に示した。足技は種類が多く、「有効」以上のポイント総数も一番多いことは前述のとおりである。主な技をみると、男子では、内股37.2%, 大外刈17.6%, 大内刈13.6%, 小外刈10.6%などの順であるのに対し、女子では、大外刈34.8%, 小内刈17.4%, 大内刈16.3%, 内股15.2%などの順である。男子に内股が多く、女子に少ないことは、腰技の払い腰と同様の理由によると思われる。その他の技は、全体で大外返6, 大内返5, 送足払2などである。

足技のポイント別割合を表14, 図9に示した。全体でみると各ポイントの割合は、手技と似た傾向であり、「有効」が半数弱の高い割合を占めている。しかし、足技は、ポイント数、技の効果の程度から、「一本」の主な技にみられる内股, 大外刈と「有効」の主な技にみられる大内刈, 小内刈, 小外刈りなどに大別できる傾向を示した。これは、それぞれの足技の特性、試合の中での使い方などの違いによるものと考えられる。

表13 足技の技別傾向 度数(割合)

	男子	女子	全体
支釣込足	4(2.0)	3(3.3)	7(2.4)
出足払	8(4.0)	4(4.3)	12(4.1)
小外刈	21(10.6)	5(5.4)	26(8.9)
大外刈	35(17.6)	32(34.8)	67(23.0)
内股	74(37.2)	14(15.2)	88(30.2)
大内刈	27(13.6)	15(16.3)	42(14.4)
小内刈	17(8.5)	16(17.4)	33(11.3)
その他	13(6.5)	3(3.3)	16(5.5)
計	199(100.0)	92(100.0)	291(100.0)

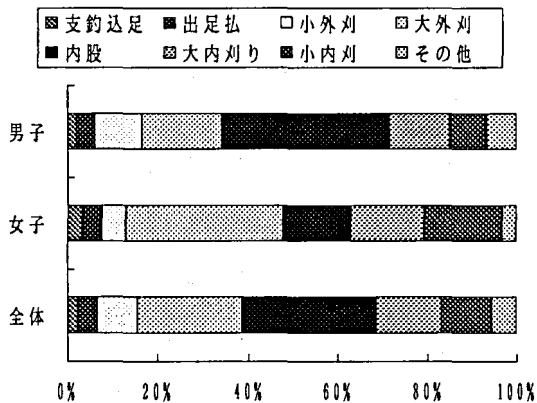


図8 足技の技別傾向

表14 足技のポイント別割合 度数(割合)

	一本	技あり	有効	計
男子	57(28.6)	48(24.1)	94(47.2)	199(100.0)
女子	20(21.7)	33(35.9)	39(42.4)	92(100.0)
全体	77(26.5)	81(27.8)	133(45.7)	291(100.0)

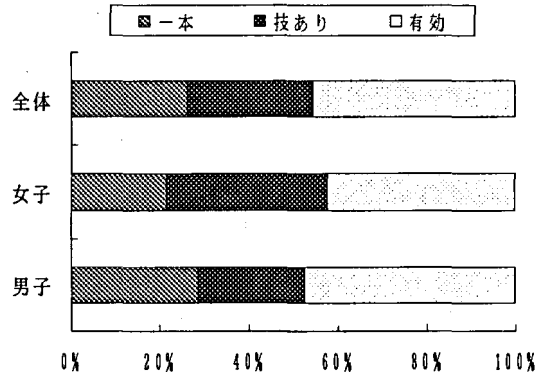


図9 足技のポイント別割合

(4) 捨身技

「有効」以上の効果があった捨身技を表15に示した。

表15 捨身技の技別傾向

	男子	女子	全体
巴投	2	0	2
裏投	2	1	3
谷落	8	2	10
払巻込	5	0	5
計	17	3	20

「有効」以上のポイント総数が20と関節技に次いで少ない。全体でみると、横捨身技である谷落10, 払巻込5, 真捨身技の裏投3, 巴投2である。捨身技の「有効」以上のポイント数は、どの大会においても少ないが、これは、体を捨てる技術的特性、むづかしさ、指導法などが要因として考えられる。

3-6 固め技の技別傾向

(1) 抑込技

抑込技の技別傾向を表16, 図10に示した。抑込技は、「有効」以上のポイント数からみて固め技の中心であり、抑え方も多様である。

全体でみると、横四方固36.3%, 袈裟固系34.0%, 上四方固系と縦四方固が14.7%, 肩固0.4%である。数の多い4つが主な抑込技といえる。男子と女子を比較すると、男子は横四方固が36.3%で一番多く、他の3つの技も比較的多いのに対し、女子は袈裟固系が44.

1%であり、二番目の横四方固を合わせると80%を超え、この2つの技に偏る傾向がみられた。これは、女子の抑込技の技術段階の遅れが理由の一つとして考えられる。

表16 抑込技の技別傾向 度数(割合)

	男子	女子	全体
袈裟固系	43(27.4)	45(44.1)	88(34.0)
横四方固	57(36.3)	37(36.3)	94(36.3)
肩固	1(0.6)	0(-)	1(0.4)
上四方固系	29(18.5)	9(8.8)	38(14.7)
縦四方固	27(17.2)	11(10.8)	38(14.7)
計	157(100.0)	102(100.0)	259(100.0)

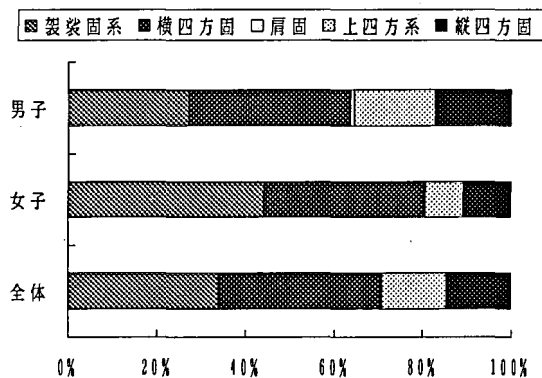


図10 抑込技の技別傾向

抑込技のポイント別割合を表17、図11に示した。「一本勝ち」における固め技の割合が多いことを表4に、また、「一本」の主な技に抑込技が多いことを表6に示したが、抑込技の「一本」の割合は、全体で66.6%と多く、女子においてその傾向が強くあらわれている。「有効」の割合が、全体で3.1%と少なく、「有効」となる20秒以上を経過した抑込技は、高い確率で「技あり」、「一本」になることを示している。

表17 抑込技のポイント別割合 度数(割合)

	一本	技あり	有効	計
男子	103(56.1)	50(31.8)	4(2.5)	157(100.0)
女子	68(66.7)	30(29.4)	4(3.9)	102(100.0)
全体	171(66.0)	80(30.9)	8(3.1)	259(100.0)

(2) 絞技・関節技

絞め技、関節技の数は、表5技の分類に示した。絞め技は送襟絞、関節技は腕挫十字固が主な技である。「一本」の主な技を表6に示したが、男子の9番目に腕挫十字固10、女子の3番目に送襟絞9があがって

る。女子に絞技が比較的多いことは、固め技の防御技術の甘さ示すものと思われる。一瞬、あるいは短時間で「一本」となる関節技、絞技は、そのポイント総数こそ少ないものの、試合の中では重要な役割を担う技といえよう。

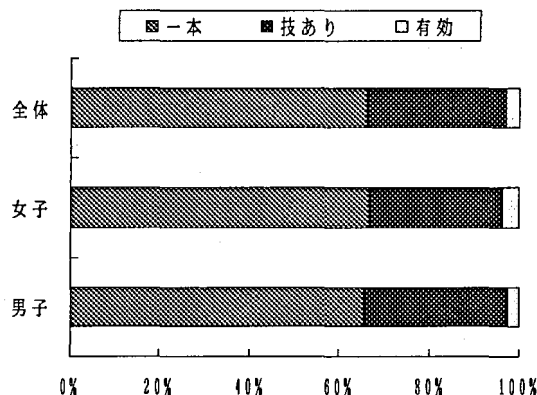


図11 抑込技のポイント別割合

4. まとめ

高校大会の結果から、男子、女子の試合内容、技を比較検討した結果は次のとおりである。

- (1) 勝負内容は、「一本勝ち」の試合が、男子54.7%に対し、女子70.7%であり、男子に比して女子の試合に「一本勝ち」が圧倒的に多かった。選手層の薄い女子に実力差が大きいことを示すものと推測される。
- (2) 投げ技と固め技の割合は、全体でおよそ7対3であった。男子と女子を比較すると、男子で投げ技優位、女子で固め技優位の顕著な傾向がみられた。
- (3) 技の分類別にみると、足技は、男子、女子ともにおよそ30%の高い割合を示した。手技、腰技は男子の割合が多く、特に腰技の割合は、女子の2倍を超え、両者の投げ技の差異をあらわしているといえる。抑込技は、女子において35.1%と特に高い割合であり、女子の試合におけるこの技の担う重さを示している。
- (4) 「一本」の技は、男子においては投げ技と固め技の割合が5：5に対し、女子では3：7と固め技に偏る傾向がみられた。主な技は、男子では、払腰、内股、一本背負投を含めた背負投などの投げ技と横四方固、袈裟固、上四方固、縦四方固などの抑込技が、女子では、大外刈、一本背負投を含めた背負投と袈裟固、横四方固などの抑込技、絞技の送襟絞がそれぞれ多く、男女の技に違いがみられた。
- (5) 「技あり」、「有効」の主な技は、男女とも、「一本」に多くみられた投げ技は、「技あり」「有効」でも多く、「一本」ではあまりみられなかった、小内刈、

大内刈などの足技が増加し、固め技では、抑込技が大きく減少した。

(6) 投げ技では、パワーを要する払腰、内股の割合に男子と女子の差が大きく、両者の体力、技術段階の差異をうかがわせた。

(7) 固め技では、横四方固が両者同程度に高い割合であった。また、女子の抑込技が袈裟固系、横四方固に偏る傾向と絞技が比較的多い点は投げ技同様、両者の技術段階に差異があることを示すものといえる。

参 考 文 献

- 1) 講道館：講道館柔道試合審判規定，1996
- 2) 辻原謙太郎，野瀬清喜他：柔道の競技分析的研究，武道学研究，2-(2)，pp197-198，1987
- 3) 佐藤行那他：第1回全日本女子柔道選手権大会の競技分析，武道学研究，12-(1)，98-100，1980
- 4) 山崎正美，坪川敏文：記録からみた技の一考察，全国高体連第34回研究調査報告書，pp7-10，1995
- 5) 静岡県高体連柔道部：第40回全国高等学校柔道選手権大会成績報告書，1991
- 6) 長谷川優，竹内外夫：男女大学生柔道選手の上腕と大腿骨の筋厚，武道学研究，20-(2)，pp149-150，1987
- 7) 柳沢久他：女子柔道選手の体格と体力 その2，武道学研究，13-(2)，pp9-11，1981
- 8) 文部省体育局：平成7年度体力・運動能力調査報告書，1996
- 9) 塚田修三：柔道試合における決まり技の傾向，長野工業高等専門学校紀要，30，pp131-138，1996